

世界の広場



写真:初めてデジタルカメラを向けられて集まってきた子どもたち (カメルーン共和国サナガガエア市、撮影:手嶋雅代)

北陸からやってきた ボランティア日記
援の助くん と 支恵ちゃん
作:トシ&マル (青年海外協力隊OB) 支恵ちゃん

「マンゴータッシュ、奪取！」



このストーリーはボランティア隊員の体験実話に基づいています(トシさんの体験談)

JICAボランティアOBOGのみなさんへ体験談を募集しています。JICA北陸広報までご連絡下さい

お知らせ
今年も国際交流フェスタにJICA北陸が参加します。詳しくはホームページをご覧ください。
JICA北陸ホームページ ▶ 秋のイベント案内 ▶ 検索

NEXT STAGE

～帰国隊員の今～ ボランティアの帰国後の様子をお伝えします。

宮川 純さん (富山県富山市)
富山県立新川みどり野高校 (現職参加 ※ 職種:養護)



10年越しの夢をかなえた人がいる。宮川さんは定時制高校の教師。ある日、知人が青年海外協力隊に参加したことを知り、自分も参加してみたいと思ったが、自分にできるか自信が持てないまま、年月が過ぎた。その頃、職場に協力隊OBがいて、話を聞いているうちに忘れていた熱い想いが止まらなくなり、思い切って応募を決断した。

派遣される以前は、飢餓や内戦、病気のイメージが強く不安を感じたが、実際、訪れたウガンダは緑に溢れ、穏やかで、人びとの優しさを実感。活動先の特別支援学校で見た生徒たちが瞳を輝かせ、授業を楽しみに待っている姿が心に焼きついた。遠く離れて、日本のことや自分のことを見つめ直すことができ、世界の広さを改めて知った。帰国し、以前の職場である高校に戻った宮川さん。実際に自分の目で見て感じることの大切さを子どもたちに伝えていきたいという。

宮川さんのように迷っている人は他にもいるだろう。夢を実現した時、何かが自分の中で大きく変わる。自分の可能性を試してみてもはどうだろうか。



※ 現職参加とは? 現在、企業等に勤めている人が、休職などの形で所属先に身分を残したままJICAボランティアに参加することを指します(法律や条令、企業制度等に基づく)

新任 支部長 挨拶

友部 秀器



北陸の皆様、はじめまして。2010年8月からJICA北陸で勤務しております。関東以外に住むのは初めてですが、風光明媚で海、山の幸に加え美味しい酒で有名な北陸を堪能させていただきます。世界の様々な人びと、文化、自然に触れたくて飛び込んだJICAですが、今回は日本の多様性を再認識し、国際協力を見直すきっかけにしたいと考えております。海外はインドネシア、フィジーで勤務し、フィジーでは「南太平洋の怪男児(快男児ではなく)」と呼ばれていました(自称との説あり)が、今回は「北陸の快男児(怪男児ではなく)」を目指し、北陸を飛び回る所存です。お目にかかれた時には北陸のお話を聞かせてください、よろしく願いいたします。

Q U I Z クイズ

カンボジアでトックイ、タイでチンチョック、バングラデシュでティキティキと呼ばれる生き物は何でしょう?

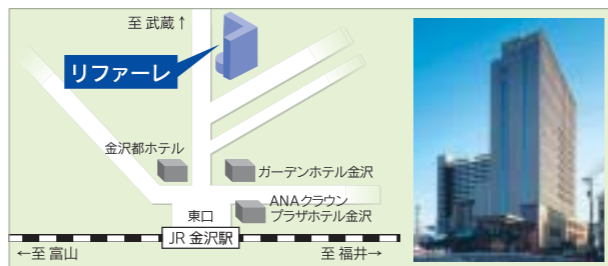
- 1 カエル 2 バッタ 3 ヤモリ

発行元: JICA北陸 (独立行政法人国際協力機構)

〒920-0853 石川県金沢市本町1-5-2 リファール(オフィス棟)4階
TEL 076-233-5931・FAX 076-233-5959
E-mail jicahric@jica.go.jp

JICA北陸ホームページ <http://www.jica.go.jp/hokuriku/index.html>

クイズの答え ③ ヤモリ 鳴き声から各国でそう呼ばれるようになった。英語ではゲッコウ。大きいものは30センチメートルを超え、蚊等の害虫を食べてくれる。聞く回数で運氣を占うという習慣があり、カンボジアでは決まった数(通常7回)鳴くと縁起がよいと言われているが、タイでは頭上で鳴くと縁起が悪いという。バングラデシュでは日本のように「家の守り神」と言われている。



JICA ボランティア最前線

北陸出身ボランティア3名の今をお知らせします



富山県青年海外協力隊OG 宮川純さん インタビュー
NEXT STAGE ～帰国隊員の今～



4コマ マンガ「援の助くん と 支恵ちゃん」 ボランティア日記

